

## 5章 学生の受け入れ

### 1. 現状の説明

#### (1) 学生の受け入れを明示しているか。

##### < 1 > 大学全体

2011年2月の入試広報センター会議において、以下の「アドミッションポリシー」を定めた。

『敬愛大学では、実践力のある人材を育成することを目指しています。そのなかでも特に、

- ・ 社会の仕組みを理解し、資格を取得し、社会において実践する力を持つことができるか
- ・ 21世紀のグローバルな社会において、豊かなコミュニケーション力を発揮できるか
- ・ 豊かな社会を実現するプロフェッショナルになることができるか

という諸点に注目し、現在および将来において、不断の努力を行う意欲のある人を選抜します。』を学生の受け入れ方針としている(資料5-1、資料5-2 p.7,9、資料5-3 p.7)。

また、「求める人物像」は、『敬愛大学は、コミュニケーション能力を高め、自らの力で問題を解決する方法を探ることができる学習意欲のある学生を求めます。』と明示している(資料5-2 p.7,9、資料5-3 p.7)。

入学者選抜の方法については、経済・国際の各学部共に、一般入試、センター試験利用入試(センター試験利用・特待生入試を含む)、推薦入試(系列校推薦、指定校推薦、公募推薦)、A0入試(A0スポーツ入試・A0文化入試を含む)、留学生入試、帰国生・社会人入試、編入学入試である。年度によって実施回数に若干の差異はあるが、一般は3期、センター試験利用は3期、推薦は3期、A0は6期(国際学部こども学科は3期)、外国人留学生は3期、帰国生・社会人は2期、編入学は2期が、平均的な実施回数である(資料5-3 p.1~2、資料5-4 p.48~49)。

障がいのある学生の受け入れについては、上記「アドミッションポリシー」および「求める人物像」に合致し、意欲と能力を兼ね備えた志願者であれば、他の志願者と同様に入学者選抜を行い、障がいの有無を問わない。

##### < 2 > 経済学部

2011年2月の入試広報センター会議において、以下の「アドミッションポリシー」を定めた。

『経済学部では、以下のような資質を有する学生を、日本社会および国際社会に対し幅広く求める。本学で、経済学をはじめとする諸学問を探究し、実学を習得し、コミュニケーション能力を高め、将来の日本社会および国際社会に資する人材として、実践力を身につけることを望む。

①建学の精神「敬天愛人」の下、人格を磨き、他者を思いやる心・慈しむ心を育み、敬愛人として社会に役立つ人材となるために努力し続ける意欲を有する者。

②経済社会、国際社会、情報化社会、高齢化社会に対応するための多岐にわたる資格にチ

## 5. 学生の受け入れ

チャレンジする意欲を有する者。

③スポーツ活動や文化活動を通じて、心身を鍛え、健全な心と体で何事にも前向きにチャレンジしていく精神を有する者。また、そのような人物になりたいと意欲する者。

④将来の日本社会を担う人材を育成するために、自身が不断の努力により研鑽を積みながら、健全なる肉体と精神を持って、教育者、指導者、社会でのリーダーを志す者。』と明示している（資料5-1）。

2013年度入試（2012年度実施）の入学定員は、一般およびセンター試験利用85名、A050名、推薦50、留学生40の合計225名（帰国生・社会人はいずれも若干名の募集）である（資料5-3 p.3~10）。経済・経営への学科選択は2年次のため、学生募集は学部一括であり、入学時の学科別定員は定めていない。

### < 3 > 国際学部

2011年2月の入試広報センター会議において、以下の「アドミッションポリシー」を定めた。

『本学部は敬天愛人の精神に基づき、国境にとらわれずライフプランを創生し、実現できる人材の育成に努めている。本学において必ず身につけてほしい能力は、

- ①自分の将来イメージを創造的かつ論理的に思考できる能力
  - ②自分を鍛え続けられる耐力
  - ③仲間と知識や経験知を相互に高めることができるコミュニケーション能力
- であると考えている。

したがって、高校時代に文系・理系にこだわらない科目履修をし、幅広い分野に関心を有している人物や、スポーツ、文化活動、ボランティア活動を行った経験を有する人物を募集する。

国際学科では、言語・文化の知識とコミュニケーション能力を高め、それを活用して社会貢献ができる人材の育成に重点を置いている。そのため、入学者としては言語能力、洞察力、行動力の向上を目指す人が望まれる。高校時代に、言語系科目、社会科学科目を幅広く履修していることが望ましい。

こども学科では、世界の人々が有する多様な価値の違いを理解できる国際感覚と国際教養をもとに、次世代のこどもたちを指導する教育者を志す人物を募集している。したがって、こどもと過ごす経験やこどもへの関心とともに、国際社会への好奇心を有している人が望まれる。高校時代に、主要五科目の十分な基礎力を身につけることに加え、体育、音楽、家庭科などの科目を履修していることが望まれる。』と明示している（資料5-1）。

2013年度入試（2012年度実施）の入学定員は、一般およびセンター試験利用60名（国際学科20名、こども学科40名）、A025名（国際学科15名、こども学科10名）、推薦35名（国際学科15名、こども学科20名）、留学生40名（国際学科のみ）の合計160名（帰国生・社会人はいずれも若干名の募集）である（資料5-3 p.3~10）。推薦入試は、系列校・指定校においては、高校の学力水準に応じて、3.0~3.8以上に評定しており、一定の学力

## 5. 学生の受け入れ

水準を要求している。

### (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

#### < 1 > 大学全体

本学は、入試広報センター会議（入試広報センター長、経済・国際両学部長、経済・国際両入試委員長、学部委員各 2 名、大学事務局長、センター室長、入試顧問、センター職員 3 名の計 15 名で構成）を年 5 回定期開催し、「アドミッションポリシー」に基づく教授会・入試委員会からの要請を網羅しながら、次年度の入試戦略、入試広報、入試実務、大学センター入学試験実施について綿密な年次計画を策定している。実務的な担当部局は、入試広報センターである。

学生募集については、入試広報センターの策定した年次計画に基づき、5 月の第 1 火曜日に全教職員を一堂に集め、説明会を開催している。オープンキャンパス・入試相談会、大学見学会、高校訪問、高校内・学外ガイダンス、高校等への講師派遣（模擬授業等）、各種媒体による広報の各項目について、全教職員への周知と情報共有を目的としている。

オープンキャンパス・入試相談会は、全学的な説明、各学部・学科説明、入試説明、各学科ミニ体験授業、グループワーク、グループディスカッション、在学生による大学紹介、卒業生による就職体験談、部活・サークル紹介、小論文対策講座、面接対策講座、教員による個別進学相談、専門スタッフによる入試相談、就職相談、大学学食体験、キャンパスツアーなど、多彩なプログラムで実施している。2011 年度は 9 回実施し述べ 624 名、2012 年度は 11 回実施し述べ 754 名の高校生が来場した。

大学見学会は、高校単位で希望高校生に来校してもらい、ミニ体験授業、在校生によるトークショー、キャンパスツアー、大学学食体験などを実施している。2012 年度には 16 校 676 名が来校した。また、個別の大学見学会も随時対応している。

高校訪問は、学長および入試広報センター会議の構成教職員で行っており、訪問校数は 280 校にのぼっている。指定校推薦の依頼を行い、また高校側のニーズを把握する機会となっている。高校内ガイダンスは 95 の会場で、学外ガイダンスは 84 の会場で実施した。高校等への模擬授業は、高校側のニーズに応じた教員を講師として、24 校に派遣した（いずれも 2012 年度実績）。

各種媒体による広報は、大学案内、入試ガイド、大学 Web サイト、各種ポスター・リーフレット等の印刷物、雑誌・新聞・中吊り、スタジアムや駅等の看板広告掲出等、不特定多数に情報発信している。以上の手段によって、具体的な情報伝達を行っている。

入学者選抜の基準については、毎年 12 月～3 月にかけて入学試験要項等を見直し、教授会・入試委員会からの要請を網羅しながら入試広報センター会議で決定し、次年度に反映させており、文部科学省の指導方針に沿って公正かつ適切に実施している。

入試問題については、出題者委員会を開催して本学の入試要項の内容に沿った作問を依

## 5. 学生の受け入れ

頼し、出題者相互間で客観的な検証を行った上で、慎重に問題冊子を作成している。合格者の選抜は、厳正な採点に基づき、入試委員会・教授会の議を経て公平かつ客観的に行われている。志願者数や倍率等のデータも全て公表しており、透明性も確保されている。

### < 2 > 経済学部

学生募集については、入試広報センター主導の下、オープンキャンパス・入試相談会での模擬授業・個別進学相談、高校訪問・日本語学校等訪問、高校内ガイダンスへの講師参加、高校等への出前授業、大学見学会における授業公開等を実施している。

入学者選抜の方法については、一般入試およびセンター試験利用入試では、筆記試験の点数を選抜の基準としている。推薦入試では、評定平均等の出願要件を満たす志願者に対する書類審査と面接評価を選抜の基準としている。AO 入試では、エントリーシート、高校時代のスポーツや文化活動等の実績、課題小論文の審査と面接による総合的評価を選抜の基準と明示している（資料 5-3 p. 7~8）。

入試の実施については、いずれの入試においても学部全教員が参画し、筆記試験、小論文および面接を複数の教員が実施および採点している。面接では特に、志願者が「アドミッションポリシー」に適った強い学習意欲を有することについて厳正に確認している。

入学者選抜の基準については、試験当日の実施連絡会議で周知し、いずれの入試においても点数・段階評価による客観化を行い厳正に判断している。教授会において全受験者の成績を開示し、採点委員および面接委員にヒアリングを行い、討議を経て厳正に合否判定を行っている。一般入試では、最高点・最低点の公開に努め、外部からの問い合わせに可能な限り対応している。

また、経済学部では簿記能力と英語力を重視し、一般入試の際、日商簿記 2 級、全商簿記 2 級、英検準 2 級以上のいずれかの資格を有する志願者は、出願書類を含めた総合評価の上、合否を判定している。留学生については、出願資格を日本語能力試験 N2 以上、もしくは日本留学試験日本語 220 点以上を取得していることと明示し（資料 5-3 p. 9）、課題小論文と面接を段階評価により客観化し、厳正に判定を行っている。

募集人員全体のうち、一般およびセンター試験利用の志願者割合は 42.3%であり、各入試制度への募集人員の配分割合は概ね適切であると考えられる。

### < 3 > 国際学部

学生募集に関わる活動として、3 月~11 月までのオープンキャンパス・入試相談会において、学部・学科説明、模擬授業、個別相談などを実施している。この他、学部長・入試委員が中心となって高校訪問・日本語学校等訪問を行い、指定校推薦の依頼をするとともに、高校からの要望を聞くなど、高校側のニーズに応えるための努力をしている。また、高校等からの依頼に応じて、教員を高校等に派遣して模擬授業を実施するほか、高校の授業の一環で本学を訪問した高校生に授業公開をしている。

本学部の入学者の選抜方法については、一般入試およびセンター試験利用入試では、筆記試験の点数を選抜の基準としている。推薦入試では、評定平均等の出願要件を満たす志

## 5. 学生の受け入れ

願者に対する面接の評価を選抜の基準としている。AO 入試では、高校時代のスポーツや文化活動等の活動実績や課題小論文、個別面接の評価を選抜の基準にしている。

募集人員全体のうち、一般入試およびセンター試験利用入試の志願者割合は、国際学科で 52%、こども学科で 69%であり、各入試制度への募集人員の配分割合は概ね適切であると考えられる。

入学者選抜基準については、学内の入試委員会で選抜基準が協議され、推薦および AO 入試は試験当日の実施連絡会議で各入試担当者に周知されている。入学試験の実施については、入試委員会が中心になるのは無論のことであるが、入試当日には学部全教員が参画して行っている。可否については、全受験者の成績を教授会で開示し、教授会の討議を経て判定を行っている。また、一般入試選抜では、最高点、最低点の公開に努め、外部からの問い合わせにできるだけ対応している。

また、国際学部では英語力を重視し、一般入試の際、英検準 2 級以上の資格を有している学生に対しては、出願書類を含めた総合評価の上、可否を判定している。留学生については、原則として日本語能力試験 2 級以上、もしくは日本留学試験で日本語 220 点以上を取得している学生を出願資格としている（資料 5-3 p.9）。留学生については、とくに面接を重視し、過去の本国での履歴、日本入国後の経歴などにつき、注意深く審査するようにしている。また、多国籍の留学生を受け入れることを目指している。

### (3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

#### < 1 > 大学全体

本項では、全学的な見地から、定員の設定と適正管理の状況について記し、詳細は学部  
の項で記す。

本学では、社会的ニーズや受験生の動向に注視し、適切な定員設定に努めている。国際学部は、195 名であった定員を、2012 年度に 190 名に、2013 年度に 160 名に改訂した。経済学部は、260 名であった定員を、2013 年度に 225 名に改訂した。その結果、大学全体の総入学定員は、2009 年度から順に 455 名、455 名、455 名、450 名、385 名となっている（大学基礎データ 表 3）。

入学定員に対して、入学者数と入学定員充足率（カッコ内）は、2009 年度から順に 424 名（0.93）、408 名（0.90）、408 名（0.90）、342 名（0.76）、332 名（0.86）となっている（大学基礎データ 表 3）。

また、在籍学生数（2013 年 5 月 1 日現在）は、収容定員に基づき厳正に管理しており、1,350 名（0.87）となっている（大学基礎データ 表 4）。

入学定員充足率、在籍学生数比率は、未充足部分について一層の取り組みが必要であるが、2013 年度の定員改訂に伴いより適正な方向に改善されつつある。

#### < 2 > 経済学部

## 5. 学生の受け入れ

現在の入学定員（225名）は、概ね適切な定員と考えている。

経済学部は、大学教育へのニーズの多様化に応じて、2012年度に経済専攻と現代マネジメント専攻の2専攻に改編された。2013年度に現代マネジメント専攻を経営学科へと昇格させ、経済学科と経営学科の2学科制への改組を行った。同時に、入学定員を260名から225名に改訂し（経済学科115名、経営学科110名、学生募集時は学部一括）、現在に至っている。実践的学問と少人数教育へのニーズ変化を反映した変更であり、概ね適切な入学定員の設定と考えている。

経済学部入学定員（2012年度まで260名、2013年度225名）に対して、入学者数と入学定員充足率（カッコ内）は、2009年度から順に213名（0.82）、224名（0.86）、217名（0.83）、195名（0.75）、194名（0.86）となっている。入学定員充足率は、定員改定により2013年度から回復傾向にある（大学基礎データ 表3）。

また、経済学部の在籍学生数（2013年5月1日現在）は、収容定員に基づき厳正に管理しており、744名（0.72）となっている（大学基礎データ 表4）。定員改訂以前の年度における未充足が、在籍学生数比率に大きく影響しているため、今後の改善が見込まれる。

### < 3 > 国際学部

現在の入学定員（国際学科90名、こども学科70名）は、概ね適切な定員と考えている。

国際学部は、1997年度国際協力学科の単科学部（入学定員200名）として設立されたが、国際協力のニーズが低下したことから、2007年度には国際学専攻（同145名）、地域こども教育専攻（同50名）の2専攻からなる国際学科へと学科名を変更した。2011年度に国際学科（同145名）、こども学科（同50名）の2学科制に改組した後、募集状況を勘案し、2012年度に国際学科（同120名）、こども学科（同70名）に改め、2013年度には国際学科の入学定員を90名へと削減し、現在に至っている。少子化の進行や大学教育へのニーズの変化を反映した変更を経てきており、概ね適切な入学定員の設定と考えている。

国際学部は入学定員（2011年度まで195名、2012年度190名、2013年度160名）に対して、入学者数と入学定員超過率（カッコ内）は、2009年度から順に211名（1.08）、184名（0.94）、191名（0.98）、147名（0.77）、138名（0.86）となっている（大学基礎データ 表3）。

国際学科は入学定員（2010年度まで国際学専攻のみ145名、2011年度145名、2012年度120名、2013年度90名）に対して、入学者数と入学定員超過率は、2009年度から順に177名（1.22）、129名（0.89）、126名（0.87）、87名（0.73）、69名（0.77）となっている。

こども学科は入学定員（2010年度まで地域こども教育専攻として50名、2011年度50名、2012年度以降70名）に対して、入学者数と入学定員超過率は、2009年度から順に34名（0.68）、55名（1.10）、65名（1.30）、60名（0.86）、69名（0.99）となっている。

また、在籍学生数（2013年5月1日現在）は、収容定員に基づき厳正に管理しており、国際学部606名（0.79）、国際学科414名（0.71）、こども学科192名（1.01）となっている（大学基礎データ 表4）。

## 5. 学生の受け入れ

### (4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

#### < 1 > 大学全体

学生募集については、入試広報センター会議（年 5 回定期開催）において現状の活動内容の検証を行い、次年度の活動計画に反映させている。志願者アンケート、オープンキャンパスアンケート、高校訪問時の高校側のニーズ、入学後の単位取得状況や学内・学外活動への貢献など、多角的に分析を行い、より魅力的な学生募集計画の策定に努めている。志願者の拡大に有効な手段として、ホームページの充実やスマートフォン専用サイトの構築が不可欠であることも、この分析から明らかになったことである。

入学者選抜については、試験監督および採点・評価は全学的な体制で実施し、毎年度 2～3 月に、入試広報センター会議および入試委員会で、各入試制度の実施内容・方法・定員について検証を行い、次年度の募集要項に反映している。

上記のように、学生募集および入学者選抜の公正かつ適正な実施は、定期的な検証が行われていると判断される。

#### < 2 > 経済学部

経済学部では、毎年 2～3 月に、入試広報センターの策定した年次計画に基づき、経済学部入試委員会において学部の特徴に合った企画を決定する。2 学科体制への移行に伴い、オープンキャンパスにおける学科紹介や模擬授業、また高校訪問における学科説明等、経済学科と経営学科をどうアピールするか検討し、企画・実施している。

入学者選抜については、本学部が採用している各入試形態について、定員配分や入試方法が適切であるかどうかを検討する。過去 5 年間の志願者・入学者数の推移と、在学中の修学状況・単位履修状況等を、入試形態別に分析し、必要に応じて定員配分を変更する。具体的には、経営学科スポーツビジネスコースの設置に伴い、AO スポーツ入試を中心とした AO 入試の定員配分拡大等である。そのような AO 入試および推薦入試での早期合格者には、教務委員会が企画・実施するプレカレッジ参加を促し、入学前の基礎学力の担保と大学生活へのスムーズな移行が行えるよう配慮している。

各入試制度における出願資格は適切か、出題科目や出題範囲は適切かなども、この時期に検証し、翌年度の学生募集、入学者選抜の見直しを行っている。例えば、指定校の見直し、高校訪問における在学生の近況報告（取得単位数、学内・学外活動や就職状況等）、サテライト入試に向けた募集戦略、公募推薦入試における面接重視型へのシフト等である。

#### < 3 > 国際学部

国際学部では、毎年 2～3 月に、入試広報センター会議および国際学部入試委員会を中心に、次年度の学生募集および入学者選抜について検討を行う。

学生募集に関しては、入試広報センターが企画したオープンキャンパス日程に合わせて、本学部独自の企画を決定し、また、留学生向け等、本学部独自で学部リーフレットを企画・

## 5. 学生の受け入れ

編集する。特に、オープンキャンパスにおける学部・学科紹介、模擬授業、個別相談では、国際学部の魅力が伝わるよう入念に企画・実施をしている。

入学者選抜に関しては、本学部が採用している各入試方法について、それらの定員配分が適切かどうかを特に検討する。各入試制度の志願者数推移等を参考にし、また入学後の修学状況等も考慮して、必要に応じて定員配分を変更する。近年、文系志望者がAO入試や推薦入試を早めに受験する傾向も見受けられるため、国際学科では、AO、推薦、一般、センター試験利用の各入試に満遍ないウェイトをおいた入学者選抜を行う一方、早期合格者には学部教務委員会が企画・実施するプレカレッジ参加を促し、入学後の授業にスムーズに移行できるよう配慮している。一方、こども学科では、卒業年次における教員採用試験受験を念頭に、緊張感を持って最後まで高校の授業に臨むことを励行する目的から、一般入試・センター試験利用入試の受験にウェイトをおいた入学者選抜を行っている。

各入試制度における出願資格は適切か、出題科目や出題範囲は適切かなども、この時期に検証し、翌年度の学生募集、入学者選抜の見直しを行っている。例えば、指定校推薦入試に関しては、入学後の修学状況の観察を踏まえて、当該高校が指定校として相応かどうか、評定平均を見直すかどうかの作業を、毎年同時期に実施している。

## 2. 点検・評価

### ●基準の充足状況

アドミッションポリシーに定めた基準に照らし、各々の入試形態に応じた適格かつ厳正な入学者選抜を実施することで、同基準を充足する学生を確保している。しかし、入学定員の未充足が続いている状況であるため、定員確保に向けたより一層の改善が必要である。

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

・オープンキャンパスへの来場高校生数が大幅に伸びている。その結果、日本人の志願者数・入学者数が増加傾向にある。2013年度の日本人入学者数は265名で、前年度比+27名（11%増）であった（大学基礎データ 表3）。また、全学的に受験生の評定平均や偏差値も上昇傾向にあり（とくにこども学科でその傾向は顕著である）、入学者に質的な伸びが見られる。

#### <2>経済学部

・大学全体と同様に、オープンキャンパス来場高校生数、日本人志願者数・入学者数が毎年増加傾向にある。2013年度の日本人入学者数は153名で、前年度比+13名（9%増）であった（大学基礎データ 表3）。大学全体と同様に、評定平均や偏差値など入学者に質的な伸びが見られる。

#### <3>国際学部

・国際学科は、日本人の志願者数、入学者数が増加に転じている。国際協力学科から国際



## 5. 学生の受け入れ

学科への変更、少人数による丁寧な指導方針、良好な就職実績などがじわじわと受験生・高校側に伝わりつつある。修学支援面では TOEIC の授業内受験など英語教育サポート、キャリア開発面では「成田で職をゲット」プログラムなど空港就職サポートを強みにしている。また、早期合格者に対して約半年間懇切なプレカレッジ研修を実施するなど、きめこまかな少人数教育や面倒見の良さが高校側の教員に評価されてきている。

・こども学科は、2011 年度入試で入学定員を確保した後、2012 年度入試では入学定員を引き上げたため未充足となったが、2013 年度入試ではほぼ充足状況にある。学力確保を目的に、推薦入試の評定平均を引き上げた結果、学力のある学生が一般入試、センター試験利用入試で受験することが多くなり、効果をあげている。

### ②改善すべき事項

#### < 1 > 大学全体

・入学定員に対する入学者数比率が 1.0 を回復していない（大学基礎データ 表 4）。過去 5 年間の入学者数に占める留学生割合は、2009 年度から順に 0.49、0.38、0.4、0.3、0.2 となっている。更なる日本人学生の募集強化により、入学定員の充足が必須である。

#### < 2 > 経済学部

・2013 年度の定員改訂実施にも関わらず、入学定員に対する入学者数比率が 1.0 を回復していない（大学基礎データ 表 4）。また、入試形態別の入学定員に対する入学者比率が不均衡である。留学生入学者数の減少が、定員充足率を低下させている傾向はあるが、入試形態別定員に占める比率は 1.03 であり、企図した結果でもある。日本人学生の募集強化を行う中で、一般入試入学者の割合 0.33 を 1.0 へ近づけることが急務である（大学基礎データ 表 3）。

#### < 3 > 国際学部

・2012 年度入試で定員を 5 名、2013 年度入試で同じく 30 名削減したが、入学定員に対する入学者数比率が 1.0 を回復していない。留学生入学者は、2009 年度より順に 141 名、98 名、77 名、49 名、26 名の推移である。留学生入学者の減少に応じた適切な定員設定と日本人学生の募集強化が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### < 1 > 大学全体

・オープンキャンパスへの来場高校生数の 100 名増を目指し、ホームページおよび新設予定の受験生応援サイトの更なる充実に注力する。ガイダンス参加者、資料請求者なども含めた受験生に適切な情報発信を行い、推薦入試はもとより、一般入試、センター試験利用入試での志願者数・入学者数の更なる増を目指す。

#### < 2 > 経済学部

## 5. 学生の受け入れ

・大学全体と同様に、オープンキャンパス来場高校生数の増加、ひいては日本人志願者数・入学者数の増加を目指す。とくに2013年度に新設した経営学科の学科紹介、ミニ体験授業や模擬授業も行いながら、経済・経営の2学科体制になった魅力もアピールする。

### < 3 > 国際学部

・国際学科は、英語教育サポートや空港就職サポートの強みを活かしながら、きめこまかな少人数教育の更なる充実を目指す。

・こども学科は、推薦入試の評定平均を引き上げながら学力を担保すると共に、一般入試、センター試験利用入試での受験生の更なる増を目指す。

## ②改善すべき事項

### < 1 > 大学全体

・オープンキャンパス来場高校生数を更に増加させるため、「受験生専用サイト」と「スマートフォン向け専用サイト」の立ち上げを企画している。動画コンテンツ等を有効に使い、アクセス数の増加から、最終的には入学者数の増加へと繋げたい。

### < 2 > 経済学部

・オープンキャンパス来場受験者の概ね4割が志願者となることから、その母数を増やすために、入試広報センターの策定した計画に基づき、効果的・効率的な高校訪問、ガイダンス、模擬授業、受験生専用サイトへのコンテンツ提供等、多角的な学生募集に努めたい。とくに2013年度に新設した経営学科のアピールに力を入れていく。

### < 3 > 国際学部

・入学定員に対する充足率を上げるため、とくに国際学科のアピールに力を入れ、日本人学生の増加に努めている。広報戦略としては、オープンキャンパスや会場ガイダンス等で、英語や国際教養を修めてグローバル時代のキャリアを拓くのに適した学科であることをアピールしていく。

## 4. 根拠資料

5-1 敬愛大学ホームページ「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」（既出資料1-10）

[http://www.u-keiai.ac.jp/admissions/admission\\_p/index.html](http://www.u-keiai.ac.jp/admissions/admission_p/index.html)

5-2 2013 入学試験要項

5-3 2013 入試ガイド

5-4 2013 大学案内 (Keiai University School Guide)